

沖縄の観光

沖縄尚学高等学校附属中学校

1年生 山口 瑠菜

私は、小学6年生の時に、東京から沖縄へ引っ越して来ました。それまでは、夏休みに祖父母の家に遊びに来たことはありました。

海や空、空気がきれいな沖縄の良いところはたくさん知っているつもりでしたが、実際に沖縄に住んでみると、沖縄が温暖な気候で過ごしやすいことや、親しみやすい人が多く、今まで知っているようで知らなかった沖縄の良さを肌で感じることができました。

しかし、沖縄には何かが足りないと思いました。

例えば、中学女子からすると、遊び場が少なすぎます。遊園地のような楽しい遊び場もなければ、女子の目を引くような可愛いお店も少ない。恋人と手を繋ぎながら歩く、素敵な場所も少ししかありません。

しかし、若者が楽しめる場所を作ることによって SNS や学校などで拡散され、世界中の人に伝わっていきます。若い人が集まることとなります。

ところで、若い人がたくさん集まる場所とはどこか。と考えた時に思い浮かぶのが、東京都渋谷区にある、竹下通りでした。私は、沖縄県に引っ越して来る前は、ずっと東京にいたので、東京と沖縄の環境の違いに驚かされることも度々ありました。しかし、沖縄の人々は県外から来た、ということに対して批判するのではなく、来てくれてありがとう。というように接してくれました。

そんな、優しい心を持った沖縄の人々ならば、竹下通りのように、若い人達が楽しむことができるような場所を作ることに対しても、すんなりと受け入れてくれると思います。

そこから考えると、若い人がたくさん集まる場所とは、沖縄のカワイイや、人々の気遣いの良さを他の人達に発信できるような場所のことではないでしょうか。

しかし、場所が分散しては、その効果は薄いでしょう。だから、竹下通りのような、商店街の形にすることによって、食べ歩きや、ショッピングなどを楽しむことが、できるようになるのです。しかも、そのような通りを作ることによって、県外からの観光客や、海外からの観光客、そして、日本や世界各国の若者が増えることにより、その通りに並ぶお店の売り上げにもつながるのです。

ここまでの事をまとめると、沖縄の観光を盛り上げるならば、若者の意見や気持ちを考え、それを取り入れていくことが必須であり、年長者が中心ではなく、若者を中心とした町づくりを行っていくことが大切なのではないでしょうか。

実際に、和歌山県有田川町では、住民がまちの活性化に積極的に参加しているらしいのです。とりわけ、4年前にポータランド型のまちづくりを導入してから、若者や女性を中心と

したまちづくりが活発化し始めました。

例えば、AGW という、住民による、地方創生プロジェクトでは、ピクニックや婚活イベントといった形でのまちおこしも行っています。こういった活動が、若者達が有田川町の魅力を再発見し、有田川町の住民としてのプライドの醸成にもつながっているのだそうです。

この有田川町のような取り組み方をお手本にすることで、沖縄のそれぞれの地域の活性化にもつながり、その地域全体で意識を高めることもできるようになるのではないのでしょうか。

沖縄には、「いちやりばちよーでー」の言葉が語り継がれてきました。まさに沖縄の「肝心 (チムグクル)」、おもてなしの心です。その心で、沖縄の良さをアピールして、観光立県としての発展を確立していけるものと思います。

育まれてきた文化、守られてきた自然、人と人がふれあうことで、絆が深まり、新たな息吹が芽生えてくるのではないのでしょうか。